

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会（メールボックス）
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



MINOH

◆ 目 次 ◆

- 活動報告
- お知らせ

♪ホームページ折々に更新中!
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡

お米寄贈プロジェクト

～ 「子ども食堂」へお米の寄贈応援ありがとうございました ～

本会で取り組みました「子ども食堂」支援「お米寄贈プロジェクト」へたくさんのお米の寄贈や寄付金をありがとうございました。300キロのお米を届けることができました！



新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、長引く自粛生活に伴い、生活が一変しました。また、台風などによる自然災害が相次ぎ、沖縄、九州から東北まで各地で甚大な被害が出ております。

本来なら現地へ支援活動に駆けつけたいところですが、コロナの感染を避けるために県外からのボランティアの受け入れが難しい状況です。このような中でも私たちができるところを静かに続けていきたいと考え活動をしてきました。

熊本地震でボランティア基地になった熊本県西原村にある障がいをもった方の自立を支援する施設「たんぽぽハウス」や福岡県筑後市「上北島教育会館」へそれぞれ150キロのお米を寄贈することができました。私たちの

応援する2つの「子ども食堂」は運営を自力で行なっています。「こどもの孤食を防ぐ」と「貧困の子供たちに食事を」子どもたちを元気にしたいと頑張っておられますが内情は大変厳しく、ボランティア活動でつながったわたしたちも応援するために、集めたお米を送ることにしましたが、株式会社アドホックス様はじめとする企業からのお米の寄贈に加え、個人の皆さまからの寄付金をいただく事ができました。地域全体で子どもを育てていく、家庭にとって子育てをしやすくするだけでなく、子どもを中心として地域全体が活性化していくことにもつながると考えます。今後とも私たちの活動へのご支援をよろしく願いいたします。（坂口 一美）



● 箕面市立第2中学校 1年生のみなさんと ●

箕面ユネスコ協会は、SDGsを推進する地域ESD拠点の一員として、ESD活動支援センターに連携・協力しています。子どもたちといっしょに考える機会があればと思っていたところ、2中の1年生のみな



さんから、わたしたちの活動についてインタビューしたいと声がかかりました。総合的な学習として、地域で取り組んでいるSDGsの達成に向けて活動している地域の施設や企業などに取材をし、そこから気づいたことや考えたことをパネルにまとめ、らいとびあ21で行われる【かやのお宝人権まつり】に参加する活動を進めているそうです。

9月14日、坂口会長とともに学習に参加しました。たくさんあった質問リストから2点紹介します。

⑤SDGsの4番「質の高い教育をみんなに」と、11番「住み続けられるまちづくりを」という目標につながる活動について、具体的にされていることを教えてください。

○「質の高い教育をみんなに」につながる活動として

世界には、紛争や経済事情などで学校に通うことができない子どもたちがたくさんいます。字の読み書きができない、計算ができない…といったままに大きくなると、お金を得る仕事につけなかったり、悪いなかまに引き込まれてしまったり…といったつらい状況に追い込まれがちです。日本ユネスコ協会連盟では、「書き損じはがき」を集め、学校に通えない子どもたちや、通えなかったおとなたちのために、カンボジア、ネパール、バングラデッシュなどで多くの寺子屋をたて、教育が受けられるようにしてきました。

箕面ユネスコ協会では、市内の小中高生と国際理解をテーマにした総合学習を行っています。現地でボランティアをした高校生や留学生ゲストを招くなどして、寺子屋や現地の暮らしの様子を伝えてきました。「書き損じはがき」を集めることに加え、箕面に住む自分たちにできることはないかいっしょに考え、生活に役立つ手作りの物やえんぴつ、寄せ書きを送ることもできました。

- ・世界にある課題について知ってほしい。
 - ・小さな一歩に取り組むことにより、よりよい社会のために役立てる感覚を持ってほしい。
- といった、願いをこめての活動です。

○「住み続けられるまちづくりを」につながる活動として

日本各地の被災地では、人口の減少が続いています。働く場を失ったり、子どもたちを育てる環境に不安があったりするからです。ふるさとを失うことはとても悲しいことです。災害を乗り越える新たなまちづくりに向けて、被災者のみなさんが少しでも元気になってもらえるように、微力ながら応援したいと思っています。

★物産展や食を楽しむ会

ボランティアを通してつながった被災地のみなさんから直接物産を購入し、箕面市民のみなさんに購入してもらったり、被災地のおいしい食材を使ったお料理を紹介したりしています。「忘れない」を共有し、箕面の地からの気持ちを届けています。

★被災地でのたこやきパーティー

被災者の方同士が顔見知りになれるということで、大変喜んでいただけました。まちの人たちがなかよしいでいることが、家を改修したあと新たなコミュニティをつくるために、とても力になると思います。

★子ども食堂の支援

熊本地震で被害を受けた地域の子どもたちを元気づける「子ども食堂」が運営されていますが、経営は大変だそうです。ボランティア活動でつながったわたしたちも応援のお米を送ることにしました。

①今まで被災地で活動されていて、大変だと思ったことは何ですか。

‘大変’というより、心掛けていることをお話します。3, 11 では、被災当事者として、全国たくさんの方から支援を頂きました。その経験を起点に何か恩返しをしたいと思って始めた活動です。活動を重ねているうちに、地域によって生きてきた習慣が違うし、いろいろな思いの人たちがいることがわかってきました。ボランティアをしたい…というこちらからの一方的な働きかけでは、押し付けになってしまうし、受け止めてもらうこともできません。一回だけの関係、その場限りのボランティアでなく、お互いが心を開き、よく話し、信頼関係を築きながら、「何をすると本当に役に立てるのか」考えていきたいと思っています。「ボランティアは相互支援」。自分たち自身も被災地のみなさんから元気をもらっていることが多いのです。

話をするにつれ、食い入るような表情で聞いてくれたみなさん。メモも熱心にとってくださっていました。また出会えることを楽しみにしています。ありがとうございました。 (大濱 淳子)

● 「箕面ユネスコ協会」 私たちに今できること ●

豪雨災害、泥掻き用タオルの寄贈活動…最後のタオル 熊本へ



私たちの呼びかけに東北は宮城県から九州は福岡県まで、多くの方々からたくさんのタオルやマスク、消毒液等お送り頂きました。9月27日に最後のタオルを送ります。個人ボランティアで全国を飛び回ってきた(バンラデシュの村をよくする会PUS JAPAN) 兵庫県篠山市の岩下八司さんへ託し熊本へ運んでいただくため、本会の辻田ご夫妻が兵庫県篠山まで届けました！



師匠こと岩下さんにはこれまで3回熊本、東北へタオルを運んでいただきました。本当に感謝しています。

…東北、山形へ (9月22日)

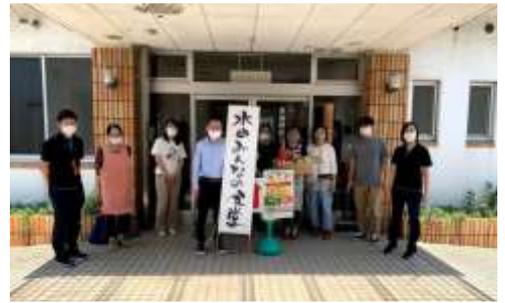
山形県西村山郡河北町谷地「押切公民館」へ8月泥かきタオルをお送りしたところでデュー7月28日に発生した豪雨により、最上川や古佐川等の氾濫により家屋の床上・床下浸水や田畑の被害、山間部町道の崩落など多くの被害が発生しました。現在は各家に大工さんが入り改装作業に入っていました。復旧早いです！



皆さんへメッセージ 「たくさんのお米提供ありがとうございました」

☆ 水田みんなの食堂 ☆ 「上北島教育会館」 田中かおる

水田みんなの食堂に90kg、生徒児童支援委員さんを通して個人的に配布20kg、上北島解放太鼓40kgと分けさせて頂きました。お米の写真、始めに取り忘れていたので2枚に分かれてしまいました。



個人的に配布の家庭は、男子4人の子どもを抱え働くお母さん、母子家庭では無いのですが複雑で、実情は厳しく見守りを続けている家庭で、お母さんがとても喜んでいました。

私も地域の子どもたちと関わる中で、見守りの大切さ、関係性、つくづく感じます。

コロナで仕事は減り、厳しい状況にありながら、助けてと言えない家庭、子どもの様子を見守りながら支援、行政機関へと繋いでいます。

上北島教育集会所も現在コロナの関係で、行政には閉館と言われましたが、休校になり家でゲームやTVばかりの子どもたちを見ていると黙ってはおれず、スペシャル勉強会を始めました。コロナ対策は大変ですが、何処にいてもコロナに感染すると思うので少しでも子どもたちを集め、楽しい集会所になるよう頑張っています。

☆水田みんなの食堂について

子どもたちと頂いたお米を使ってみんなで料理を作りたいと思います。

2018年8月筑後市社会福祉協議会の地域食堂立ち上げ講座を受講切っ掛けにボランティアが集まり研修や視察を始めました。

- ・みんなでつくる地域の居場所～温かい食事を通したつながり～
- ・みんなで食べるとおいしいね～食事と人づくりを学ぶ～
- ・実践を見学、夏休みこどものひろばにて食堂をプレオープン

地域のみなが繋がれる場所として水田みんなの食堂を始めました。

チラシを配布、参加人数も読めず苦慮しましたが、回を重ねるごとに口コミで広まり始めは50人前後の参加者が、最近100人近くに増えて来たところに、新型コロナウイルスの影響で食事提供ができなくなりました。しかし子どもたちの現状は厳しいものがあり、現在、お米を始め、うどんやラーメン・レトルトカレー等インスタント食品を袋詰めして配布します。

10時より配布を始めますが、たくさんの方が参加があり、高齢者、家族連れ、学童の子どもたち、中学生や高校生も参加します。部活帰りの中学生、袋の中をのぞき込み「来て良かった！お母さんが喜ぶ」と会話、感動したスタッフが涙ながら対応していました。「簡単に作れるから、自分で作って食べてね。」と声がけしました。一人暮らしの高齢者も早くから来て頂き「10時からですが」と話しかけると、「大丈夫待ってよ」と言われ、コロナがなければお茶を飲みながら待って頂けるのにと、ちょっとした会話の中で、困りごとや、心配事等、様々な問題と繋がれる場所に水田みんなの食堂がなれると思います。

～ お知らせ ～

2020年10月25日 10:00～15:00 NPOフェスタ
箕面ユネスコ協会 被災地支援チャリティー物産展行います！

■コロナ下での活動が制約されていますが、箕面ユネスコとしてできることが何かあればお知らせください。
みなさんとともにがんばっていきたいと思います。